



第13回 医局対抗サッカー大会

優勝した整形外科チーム
会場は農試公園屋内競技場
(ツインキャップ)



CONTENTS

◆研究科長より	
新年のご挨拶	1
◆学内行事	
第88回国立大学医学部長会議を開催して	2
◆学術・教育・一般	
アフリカで最も若い国、エリトリアの 高等教育視察団が来学	3
北海道大学サステナビリシティ・ウィーク 2009年	4
2年次学友会懇話会	5
第13回 医局対抗サッカー大会	6
◆お知らせ	
研究科修士課程入試説明会の開催について	7
平成22年度 科学研究費補助金応募状況	7
平成22年度 医学研究科学生募集出願状況	7
平成21年度末 教務関係行事予定表	7
平成21年度 財団等の研究助成採択状況	9
◆事務部から	
医学部90周年記念事業基金募集状況について	10
寄附金納入状況	10
ご寄附いただいた法人・企業・団体等	11
広報室便り12・編集後記	12

1 研究科長より

新年のご挨拶

安 田 和 則 北海道大学大学院医学研究科長・医学部長



新年、明けましてお
めでとうございます。

昨年度は北海道大学
医学研究科・医学部に
とりまして重要な事が
多い年でした。3月に
中研究棟が竣工し、5
年にわたった研究棟の
改修はすべて終了しま
した。5月には大学院
生の中間審査が初めて

行われました。これは平成19年から行ってきた大学院教
育の実質化を図るための医学研究科の改革の中で、重要
な意味を持つものです。8月には、従来の図書館の機能
を保有しつつ現在の医学生に充実した教育・学習環境を
与えるという新しい概念の医学研究科・医学部図書館が
竣工しました。9月にはフラテ祭2009が開催されました。
フラテ祭はこれで第3回目となりますが、参加者は年々
増加しており、主催者として大変うれしいことです。10
月には北海道大学医学部創立90周年記念式典および祝賀
会が、札幌グランドホテルで盛大に行われ、多くの来賓
および同窓の先輩から「北海道大学医学部の大きな存在

を再認識した」、「楽しい会であった」、等の励ましのお言葉をいただくことができました。10月にはまた、北海道大学医学部を議長校として第88回国立大学医学部長会議が札幌グランドホテルで開催され、本邦の医学教育における北大の存在を示すことができました。これらはすべて、北海道大学医学研究科・医学部の今後の発展に繋がる明るい出来事であり、これらの事業の立ち上げにご尽力いただいた本間前研究科長を始めとする前執行部の諸先生に改めて感謝を申し上げます。

今年は北海道大学医学部が100周年へ向けての新たな10年に踏み出す年であり、昨年にもまして重要な年になると考えております。国立大学法人に対する国からの運営費交付金は年々削減されており、今年も歯止めがかかりそうもない状況にあります。我々は知恵を絞ってこれに立ち向かわなくてはなりません。幸い、北海道大学大学院医学研究科の研究力は最近大きく伸びており、例えばトムソン・ロイター社のデータベースに基づく北海道大学の資料によれば2004～2008年度における医学研究科からの論文総数は2,511編、それらの被引用数は15,523

回、世界トップ1%高被引用論文数は33編を数えます。この力を基盤として、我々はさらに大胆な知の創造を行うことにより研究および教育の質をさらに向上させ、合わせて新たな外部資金を獲得する取り組みを行いたいと思います。一方、医学の本質を考えた時、学問の多様性を認めた堅実な知の探求を不断に行うことも必要であり、その基盤作りへの予算措置も着実にやりたいと思います。そして北海道大学医学研究科・医学部の皆様と共に、教育・研究・診療が三位一体となった我々の使命に全力で取り組み、次の10年間に今までにないほどの大きな発展があり、また世界の医学・医療の進歩、ひいては人類の幸福のために今まで以上に大きな貢献ができるように頑張りたいと思います。今年の7月には医学部創立90周年記念事業としてご寄附いただけるフラテ会館が竣工し、3月に竣工予定の新管理棟と合わせた多目的教育研究施設が完成します。この施設は次の10年間における北海道大学医学研究科・医学部発展の核となり、また象徴となることを期待しております。

2 学内行事

第88回国立大学医学部長会議を開催して

安田 和 則 北海道大学医学部長

平成21年10月22日（木）に北大医学部を議長校として、第88回国立大学医学部長会議が札幌グランドホテルで開催されました。国立大学医学部長会議は昭和29年に設立され、国立大学の医学部・医科大学の教育、研究等に係る諸問題および関連する重要事項について協議し、相互の理解を深めるとともに意見の調整を図り、医学教育研究等の情報発信を積極的に行い、我が国における医学・学術の進歩発展に寄与することを目的としております。この数年間、国立大学医学部長会議は優れた医師の育成を通して国民に良質な医療を提供するという責任を果たすために、過去にも増して活発に活動が続けております。特に我が国における医学の教育、研究等に係る重要な諸問題については、政府に対して中立の立場からの良識と学識に基づく提言を行ってきました。

今回の第88回国立大学医学部長会議には全国42国立大学医学部・医科大学の医学部長・学長、事務（部）長が参集し、いわゆる医療崩壊および医学教育崩壊の危機を解決するための要望書、臨床研究に関する倫理指針の改正、大学医学部における教育職の人材確保、新型インフルエンザのワクチン接種、等について協議が行われました。また医薬品連携小委員会、大学医学部の教育病院の

在り方に関する検討委員会、教育制度・カリキュラムに関する小委員会、動物実験に関する小委員会から重要な報告があり、検討が行われました。この会議の後、新型インフルエンザのワクチン接種についての提言に関しては、同ホテルにて記者会見が開催されました。また平成21年10月27日（火）に、この会議で決定された要望書が政府へ提出されました。

この会議の開催は、私が4月から務めていた国立大学医学部長会議常置委員会委員長の任期を終了する前の最後の任務でありました。この会議の開催に当たって、佐伯北海道大学総長には直々にご祝辞を賜り、また医学研究科事務部には総力を挙げた絶大なご支援をいただきました。この紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。



会場の様子



安田 常置委員会委員長

3 学術・教育・一般

アフリカで最も若い国、エリトリアの高等教育視察団が来学

玉 城 英 彦 国際保健医学分野



写真1 エリトリア高等教育視察団と医学研究科の懇談

来学の目的：

2009年11月18－19日、エリトリアの大統領府ヤマネ・ゲブレ・メスケル官房長官を団長に、エリトリアの7大学の学長、高等教育委員会委員長、財務省財務局長からなる総勢10名の高等教育視察団が本学を訪問し、佐伯宏総長、林忠行副学長、および安田和則医学研究科長らと会談して、連携の可能性を探った（写真1）。

来日の背景：

日本によるエリトリアの高等教育支援は、2008年5月に開催された第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）で、同国のイサイアス・アフォルキ大統領（写真2）が福田総理（当時）に要請したことに端を発する。その後JICAは文部科学省と連携して日本の大学教員からなる調査団を派遣し、留学生の受け入れによる支援などを念頭に、日本として可能な支援を検討している。筆者も調査団の一員として2009年4月にエリトリアを訪問した。



写真2
イサイアス・アフォルキ・
エリトリア大統領

エリトリア一行の本学来学の詳細を述べる前に、アフリカで最も若い国、エリトリアについて多少触れることにする。

エリトリアの概要：

1993年にエチオピアから独立した、アフリカで最も新しい多宗教・多人種国家である。アフリカの角（北東部）に位置し、東側はジブチ、西はスーダン、南はエチオピア、そして北側は紅海に囲まれた、北海道と九州をあわせたほどの国家面積である。紅海に面した東側のアサールの海拔ゼロから首都のアスマラの約2,300mまで高低差が大きい。地理的には中央高地、西低地、東低地、および海岸低地の4つに分類されている。行政的には6つの州（ゾーバ）に分割され、さらに57個のサブゾーバと2,564村に分かれている。人口約350万人。

エリトリアの国名はギリシャ語で紅海という意味で、国の北側は実際紅海に沿った長い海岸線が続く。中東、アジアへの玄関口として、利便性に富み、地政学的にも大変重要な国である。首都アスマラはティグリニア語で、「四つの村が結ばれた」という言葉に由来するという。第二次世界大戦までエリトリアはイタリアに統治されていたが、その後英国軍に占領され、1952年まで英国の保護領であった。アスマラは、南ヨーロッパ風の建物が今でも整然と立ち並ぶ美しい街だ。その街角の古い喫茶店で出されるモッカコーヒーの味はイタリアの田舎町で飲むコーヒー以上に薫り高い。

日本からアスマラへの旅程は南回り（シンガポール経由）と北回りがある。私たちは北回りのルートを利用し、フランクフルト、サウジアラビアのジェダーを経由してアスマラに到着した。24時間以上の長旅であった。しかし、アスマラ空港は約2,300mの高地にあるため、満天の夜空は明るく、吹く風もさわやかで、長旅の疲れを癒してくれた。

エリトリアの高等教育：

教育省は、初等・中等教育行政を管轄するものの、大学等の高等教育については監督権限を持っていない。高等教育については、大統領府直結の「高等教育委員会」の下に、大統領補佐官、高等教育委員長、および7つの大学の学長を含む9人の委員が管理している。今回、この9人に財務省財務局長を含む10人が来日した。

国の高等教育機関の活動を調整する委員会として、7つの大学の学長を含む、高等教育調整暫定委員会

(PCCHE)が2006年10月に設立された。PCCHEの目的は、委員の意見交換を促進し、高等教育機関間の相乗効果や補完性を創造するための活動を調整することである。

2003年まで、高等教育機関といえば、1958年に設立されたアスマラ大学であった。高等教育の戦略と国内のアクセスの拡大に沿って、2003-2004年に、アスマラ大学は7つの大学に分割され、現在に至っている。7つの大学は組織上、それぞれの専門大学として独立しているが、組織は若く、実質的な独立に向けて現在途上過程にある。自国の成長を担う産業人材の育成機能が十分なく、高等教育にテコ入れして技術力を支える人材の裾野を広げることが急務となっている。

本学、特に医学研究科の果たす国際的役割と今後の展望:

アフリカは日本の将来を担う外交にとっても極めて重要な地域である。その一翼を担うアフリカで最も若い国、エリトリアは1993年の独立まで、アフリカで最も長い30年の独立戦争を経て、自分たちで独立を勝ち得たという強い自負がある。とはいうものの、紛争で破壊されたインフラ修復をはじめ、特に高等教育を含む国家全体の教育体制は再建途中にある。よって、エリトリアが、わが国の明治以降の人的資源開発と経済発展の歴史を、エリ

トリアの産業分野を今後リードする人材養成のモデルになりえると考えるのは当然であろう。日本のソフトパワー外交の一環として、わが国の教育のノウハウを適切に移転することの意義は大きい。

本学でも、その大きな枠組みの中で、エリトリアに代表されるアフリカの新興国の人材育成に貢献することは、本学の国際化をさらに推進し、またその国際的なプレゼンスをいっそう強化するものとなるだろう。エリトリアでは、今年最初の医学部卒業生が誕生する。歯科では2年前に第一期生を募集したばかりであるが、教員不足で十分なカリキュラムが組めない現状にある。その他保健科学、工学、農学、水産学、経済学、文学部の現状も同様で、新しい大学での教員不足の解消が緊急の課題だ。エリトリア側は北大での、若手研究者(大学院生)の育成を強く望んでいる。

これを持続可能にするために、エリトリア7大学と何らかの形で正式に合意し、これを基にエリトリアを初めとするアフリカの人材育成ならびに研究教育支援を援助しつつ、新しいフロンティアを積極的に開発し、日本外交にも貢献することが本学に求められていると思う。本学には広い涵養の精神の下、それを実践するだけの英知とパワーが備わっている。

北海道大学サステナビリィティ・ウィーク 2009年 都市化と健康 -2010年世界保健デーに向けて-

玉 城 英 彦 国際保健医学分野

世界保健機関は2010年4月7日の世界保健デーのテーマを「都市化と健康」と定め、世界各地において関連活動を開始している。世界の人口の半分は都市部に集中し、2050年にはこれが7割に増えると予想されている。このように、人々の健康に関わる課題において、都市化の視点は不可欠である。

今回の企画は、この「都市化と健康」に対する課題意識の啓発と来たる世界保健デーへの参画の推進を期して、医学研究科・国際保健医学分野が、世界保健機関神戸センター、および本学大学間協定校(担当部局医学研究科)であるジュネーブ大学(スイス)およびデラサル大学(フィリピン)との共催により、国際シンポジウムを実施した。その他に、医学研究科担当の本学大学間協定校ナイジェリア大学(ナイジェリア)、エボニ州立大学(ナイジェリア)、テキサス大学(米国)、ペラデニヤ大学(スリランカ)の代表者がパネリストとして参加した。

シンポジウムは、前半の招待講演および後半の会議参

加者を交えたグループ討論、そしてそれに基づく全体討論の2パートにより構成された。

前半では、世界保健機関神戸センター、東京医科歯科大学、北海道大学の専門家による講演を通して、都市化と健康の課題と2010年世界保健デーについての趣旨紹介や活動啓発が行われた。

後半のグループ討論では、会議参加者が10名ほどのグループに分かれて、1)都市に住む市民の健康問題、2)2010年世界保健デーに実施してほしいイベントの2点について議論し、その後の全体討議において各グループのリーダーから討論内容の発表が行われた。「都市化と健康」の具体的な課題として、「うつ」や自死などの精神的な問題や、公害や交通事故などの環境問題、そして健康を維持するためのコストが主たる課題であることが、各グループからの意見として示された。また、これに対する世界保健デーとして活動提案についても、「都市環境」での市民の幸福の希求、運動不足の解消や、エコカー



写真1 グループワークの風景

の普及など、多岐にわたる都市の健康問題に対する取り組みのあり方が活発に討議された（写真1）。

このように本会議は、都市の健康を担う主役は市民という観点から、複雑多岐な課題に如何に取り組むかを参加者が積極的に考えられるよう企図して運営を行った。この成果を来たる2010年世界保健デーへ向けた活動、さらには持続可能な社会の実現の一助となるよう今後展開していきたい。

このシンポジウム開催にあたって、協定校の代表者一行は安田和則医学研究科長を訪問し、懇談した（写真2）。医学研究科の国際化推進にはこのような海外の拠点大学とのネットワークが不可欠であり、今後さらなる有効利用が望まれる。特に、英語による講義の共同開発や学生実習・



写真2 協定校（エボニ州立、テキサス、デラサル、ナイジェリア、ペラデニヤ大学）の代表者と安田和則研究科長

研修の実質化、研究促進など、部局間協定校に加え、大学間協定校のネットワーク活用などその活用範囲は広い。

また、パーソン・オコロ・ナイジェリア大学学長とハビネス・オセレベ・エボニ州立大学准教授らは本学佐伯浩総長を表敬訪問し、若手研究員や学生の交換など、今後の連携・協力などについて会談した。さらに、それぞれの海外出席者は大学主催のレセプションに出席し、総長他参加者間の親交を深めた。

またシンポジウム終了後も一行はその滞在期間中、研究プロジェクトの共同開発など、今後の連携強化の具体的な計画についても討議した。このように一行は日程を無事に終了、北大そして医学研究科のホスピタリティに感謝して、それぞれ帰国の途についた。

2年次学友会懇話会

岩 永 敏 彦 医学部教務委員会・副委員長

2学期の授業初日にあたる10月5日（月）に、2年生を対象にした学友会懇話会が開催された。学友会懇話会は在学中にもう一度、臨床実習直前の4年生を対象にしたものが2月に開催されることになっている。

懇話会に先立つ基礎コース進級ガイダンスは、改修された図書館3階の講堂で行われた。そこでは、これから始まる専門課程のカリキュラム、共用試験（CBTとOSCE）や進級判定の時期と概要を説明し、また生活上の注意などについて医学部教務委員会を代表して行った。生理系コースから次の病理・社会医学系コースへの進級は、毎年厳密な進級判定を行い、多いときで10名を越える留年者が生じること、1科目未修得者のGPAによる特例処置などを説明した。

続いて5時30分から、医学部生協食堂に場所を移して懇話会を開催した。安田学部長、有賀教務委員会委員長のほか、教員40名近くと2年生学生のほぼ全員が参加して開催された。教員の参加は例年になく多かった。これ

までの懇話会は学生食堂「はるにれ」で開催していたが、改修工事（保健管理センターへの模様替え）に入っため、今年は医学部生協食堂での初の開催となった。学部長の挨拶の後、基礎系各分野の紹介と担当科目の説明、学生の質問と続いた。狭いことが心配されたが、身動きがとれないほどではなく、その分親密な交流ができたと思う。ただし、接近しているため会話がはずみ、各分野の紹介時に騒々しかった点は今後改善の余地がある。

医学部卒の基礎医学研究者の確保が急がれる中、基礎科目教育の充実を通して、学問の楽しさと研究する夢を伝えられたらと思いつつ、無事終了した。



生協食堂での一コマ 学生に囲まれる吉岡副研究科長

第13回（平成21年度）医局対抗サッカー大会

笠原靖彦 整形外科

幹事 整形外科

本年度の医局対抗サッカー大会は11月7日、8日、21日、22日に予選リーグを、29日に決勝トーナメントを、札幌市西区の農試公園屋内競技場（ツインキャップ）を舞台に行われました。昨年度は12チームだった参加医局が今年度は15チームに増え、各予選リーグも僅差の試合が多かったように思いました。Aブロックは3戦全勝の整形外科が1位、2位から4位は勝ち点3で、循環器内科、第2内科、精神神経科の3チームが、得失点差でも循環器内科、第2内科が並ぶ接戦の末、直接対決を制した循環器内科が2位で決勝トーナメントに進みました。Bブロックでは、3戦全勝の第1内科・皮膚科合同チームが1位で、2勝1敗の形成外科が2位で決勝トーナメント進出を決めました。なお、3位はリハビリ科、4位は病理合同でした。Cブロックは、昨年度優勝チームで、過去5回優勝の第1外科を破って、侵襲制御医学が全勝で1位、眼科を破って2位を確保した第1外科が2位で決勝トーナメント進出を決めました。Dブロックでも、優勝経験のある第2外科が1勝1敗1分けの勝ち点4で3位となる波乱のなか、スポーツ再建医学と泌尿器科が勝ち点6で並びましたが、得失点差で上回ったスポーツ再建医学が1位、泌尿器科が2位で決勝トーナメント進出を決めました。4位は放射線・核医学でした。

決勝トーナメント1回戦は、整形外科vs形成外科、循環器内科vs第1内科・皮膚科、侵襲制御医学vs泌尿器科、第1外科vsスポーツ再建医学の組み合わせで行われました。連覇を狙う整形外科は順当に形成外科を8対0で下し、Aブロック2位の循環器内科はBブロックを3戦全勝で勝ち上がった第1内科・皮膚科合同チームを接戦の末、3対1で下しました。予選で第1外科を下した侵襲制御医学ですが、泌尿器科の前に4対2で敗れました。

1回戦屈指の好カードとなった第1外科とスポーツ再建医学の対戦は、前半のリードを生かした第1外科が5対3で準決勝進出を決めました。予選と同カードとなった整形外科と循環器内科の準決勝は雪辱を狙う循環器内科に対し、選手層の厚さを見せた整形外科が8対1の大差で決勝へ勝ち上がりました。準決勝のもう1試合は、試合終了間際お互いに点を取り合う展開で、2対2の同点の末に、PK戦を制した泌尿器科が第1外科を破り、初の決勝進出を決めました。両チームが3試合目となり疲れの見える3位決定戦は接戦の末、循環器内科が第1外科を3対2で振り切り、3位を決めました。決勝戦は連覇を狙う整形外科と初優勝を狙う泌尿器科の対戦となり、前半はお互い惜しいシュートが決まらず膠着状態が続きましたが、終了間際に中央をドリブル突破したエースの得点が決まり整形外科が先制。後半も堅い守りから逆襲を許さず、効果的に追加点をあげた整形外科が4対0で泌尿器科を下し、連覇を達成しました。

スポーツ再建医学チームに中足骨を骨折した方がいましたが、予選・決勝トーナメント通じ、大学整形外科にはサッカー大会参加者の受診はなく、大きなけが人を出さずに大会を終えることができたのは何よりでした。決勝トーナメントには安田医学研究科長や野々村泌尿器科教授も応援に駆け付けていただき、盛り上がった大会となりました。運営や審判業務を手伝ってくれた、北大医学部サッカー部員の皆さんに感謝し、この場を借りてお礼申し上げます。来年度も整形外科が幹事を引き受けますので、決勝トーナメントの開催日を土曜日にできるように会場確保に努め、多くの医局、そして参加者が参加できるような大会にしたいと思います。



準優勝の泌尿器科チーム



病理合同チーム

腫瘍病理、分子病理、病態医化学と3分野合同チームで参加した

4 お知らせ

研究科修士課程入試説明会の開催について

平成22年度医学研究科修士課程第二次学生募集出願予定者を対象とした入試説明会が去る12月6日（日）午後1時から第3講堂で開催されました。（参加者5名）

説明会では3つの教育コースに関して、岩永教授から設置経緯・目的、カリキュラム等について、又、平成22年度の学生募集出願手続き及び選抜方法等について、順次説明されました。その後の質疑・応答では、参加者から各コースの具体的な内容やそれぞれの違いについて、質問が寄せられました。

平成22年度医学研究科（博士後期・修士第二次）学生募集出願状況

平成22年度医学研究科博士課程後期募集及び修士課程第二次募集の結果、出願者数は次の通りでした。

博士後期募集 62名（男45名、女17名）

修士第二次募集 7名（男3名、女4名）

平成22年度科学研究費補助金応募状況

研究種目	新規申請	継続申請
	件数	件数
特別推進研究	0	0
特定領域研究	5	1
基盤研究（S）	1	1
基盤研究（A）	5	8
基盤研究（B）	22	11
基盤研究（C）	33	39
挑戦的萌芽研究	34	6
若手研究（S）	※	0
若手研究（A）	6	2
若手研究（B）	27	12
若手研究（スタートアップ）	※2	2
新学術領域研究（領域提案型）	11	3
新学術領域研究（課題提案型）	※	1
合 計	144	86

※ 新規公募について、平成22年度は停止

※2 平成22年度公募は平成22年4月頃を予定

平成21年度末 教務関係行事予定表

（医学研究科・医学部医学科）

月	日	曜	行 事 等
12	1	火	博士課程後期・語学試験願書受理期間【～7日（月）】
	6	日	修士課程二次入試説明会（13：00～第3講堂）
	8	火	修士課程二次願書受付期間【～14日（月）】
	10	木	教授会
	18	金	6年次授業終了（「選択実習Ⅱ」最終日）
	21	月	5年次冬季休業【～1月15日（金）】
			博士・修士学位記授与日
	25	金	6年次成績入力締切 1～4年次冬季休業【～1月5日（月）】
1	5	火	1～4年次授業再開
	7	木	教授会
	8	金	博士課程（3月修了予定）論文提出期限 博士課程3月修了予定者成績締切
	15	金	退職記念最終講義（前沢政次教授14：45～16：15）（臨床大講堂） 学部卒業者成績入力締切
	16	土	平成22年度大学入試センター試験 高機能センターS会場（S棟）副担当《主担当：獣医学部》
	17	日	
	18	月	5年次授業再開 修士課程二次入学試験（中研究棟3階：共通セミナー室3-1）
	20	水	博士課程後期入学試験・語学試験（南研究棟1階渡り廊下：仮設講義室）
	22	金	修士課程（3月修了予定）修士論文提出期限 修士課程3月修了予定者成績締切

	26	火	4 年次授業終了	
	27	水	4 年次「共用試験 C B T」【～28日（木）】	
	29	金	退職記念最終講義（本間研一教授13：00～14：30、福島菊郎教授14：45～16：15）（臨床大講堂）	
3 年次授業終了				
4 年次「診断学実習」開始【～2月12日（金）】				
学部シラバス入力（科目責任教員）期限				
高桑榮松奨学基金募集期限				
	下旬		課程博士審査会〔短縮修了予定者（平成19年度以降入学者）】【～2月10日（水）】	
	30	土	平成22年度大学入試センター試験【追試験】 高機能センター《全学協力体制・石狩圏内各大学合同協力体制》	
31	日			
2	1	月	医学科教務委員会（卒業判定）	
			3 年次定期試験【～12日（金）】	
			課程博士論文公開發表【～5日（金）】	
			学位審査最終審査トライアル【～16日（火）予備日含】	
	4	木	教授会（学部卒業者の決定、修士第二次、博士課程後期入学試験合格者決定、語学試験合格者決定） 教授会終了後、奨学基金委員会	
	5	金	2 年次授業終了	
	8	月	2 年次定期試験【～17日（水）】	
			全学教育授業終了	
			第104回医師国家試験受験票及び医師免許申請書交付【～12日（金）】	
	9	火	修士課程論文公開發表【～12日（金）】	
	13	土	第104回医師国家試験【～15日（月）】	
	15	月	（博士課程二次出願資格審査申請受理期間【～17日（水）】）	
	16	火	4 年次「共用試験 O S C E」	
			博士課程（3月修了予定）学位論文審査結果報告締切	
	18	木	教授会	
			臨床実習オリエンテーション【17：00～図書館3階第1講堂】及び4年次学友会懇話会【17：30～医学部食堂】	
			修士課程（3月修了予定）学位論文審査結果報告締切	
	19	金	研究生願書受理期間【～26日（金）】 平成22年度私費外国人留学生（学部）入試第2次選考試験（小論文・面接）実施	
	23	火	（博士課程二次願書受理期間【～26日（金）】）	
			研究科教務委員会	
	25	木	平成22年度本学第2次入学試験（前期日程）実施 第6試験場（高機能センターE棟3階）主担当《副担当：獣医学部》	
	26	金	学部4年次（第1回目）成績入力締切	
	3	1	月	学部4年次（最終）成績入力締切
		4	木	拡大教授会（修士・博士課程（3月修了予定）学位論文最終審査、修了認定）
				教授会
			平成22年度本学第2次入学試験（前期日程）【追試験】（未定）《現在全学で検討中》	
5		金	退職記念最終講義（岸 玲子教授15：00～16：30）（臨床大講堂）	
8		月	修士（二次含む）、博士前期・後期入学手続期間【～11日（木）】	
			高桑榮松奨学基金授与式（11：30～授与式・懇親会）（中研究棟5階：共通セミナー室5－1、5－2）	
9		火	（博士課程二次入学試験（中研究棟5階：共通セミナー室5－1））	
11		木	学位審査トライアル最終審査トライアル公開發表	
12		金	平成22年度本学第2次入学試験（後期日程）実施 第7試験場（高機能センター）担当【医学部】	
			大学院2学期・通年開講授業科目成績締切	
15		月	医学科教務委員会（4年次進級判定）	
			課程博士公開發表会〔短縮修了者（平成19年度以降入学者）〕	
16		火	退職記念最終講義（佐々木文章教授13：00～14：30）（臨床大講堂）	
18		木	教授会（学部4年次進級判定、（博士課程二次入学試験合格者決定））	
19		金	平成22年度本学第2次入学試験（後期日程）【追試験】（未定）《現在全学で検討中》	
			5 年次授業終了	
23		火	4 月入学研究生入学手続期間【～25日（木）】	
24		水	退職記念式典	
25		木	学位記授与式（博士・修士・学士）、13：30～学士学位記伝達式（臨床大講堂）、引き続き卒業祝賀会 概ね15：00<学士学位記伝達式終了後>～修士・博士学位記伝達式（第3講堂）、引き続き祝賀会	
			修士・博士課程（6月修了予定）論文提出期限	
			（博士課程二次入学手続期間【～29日（月）】）	
29		月	第104回医師国家試験合格者発表（14：00北海道厚生局）	
4		2	金	大学院入学式（修士10:00～、博士13:00～）、医学研究概論、基本医学研究概論【～5日（月）予定】（臨床大講堂）
		5	月	学部2～6年授業開始
	6	火	大学院授業開始	
	7	水	学部新入生オリエンテーション	
	8	木	10：00～北大入学式、14：00～医学科入学式（臨床大講堂）	
	10	土	学部新入生合宿研修・新入生ガイダンス含む（大滝セミナーハウス）【～11日（日）】	
12	月	全学教育授業開始		

平成21年度 財団等の研究助成採択状況

財団法人等名	種 別	研究者名	交付金
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所	2009年度共同研究A	笠原 正典	180,000
社団法人 日本皮膚科学会	基礎医学研究費	猪熊 大輔	500,000
財団法人 成人血管病研究振興財団	平成21年度学術研究支援	西本 新	500,000
財団法人 喫煙科学研究財団	平成21年度研究助成	三輪 聡一	4,000,000
		吉岡 充弘	2,000,000
		秋田 弘俊	2,500,000
		別役 智子	5,000,000
		玉木 長良	2,000,000
財団法人 日本応用酵素協会	平成21年度研究助成	岩永 ひろみ	1,000,000
財団法人 三島海雲記念財団	平成21年度学術研究奨励金	岩永 敏彦	1,000,000
財団法人 秋山記念生命科学振興財団	研究助成（一般）	秋山 真志	1,000,000
		外丸 詩野	1,000,000
	研究助成（奨励）	津田 真寿美	500,000
		猪熊 大輔	500,000
財団法人 伊藤医薬学術交流財団	学会等助成	本間 研一	450,000
		福田 諭	450,000
	交流助成	吉岡 英治	200,000
		大村 優	200,000
	招聘助成	西村 正治	200,000
社団法人 全日本コーヒー協会	研究助成	神谷 温之	1,500,000
財団法人 日本リディオリリー協会	研究助成金	有田 賢	500,000
ネスレ栄養科学会議	研究助成	神谷 温之	1,000,000
財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団	研究助成金	絹川 真太郎	500,000
財団法人 札幌国際プラザ	札幌国際プラザ助成金	本間 研一	80,000
財団法人 北海道大学クラーク記念財団	博士後期課程在学生研究助成	藤田 靖幸	500,000
		須藤 洋一	450,000
		夏賀 健	500,000
		王 磊	500,000
		佐々木 知幸	500,000
財団法人 三井生命厚生事業団	研究助成金	小谷 善久	1,000,000
財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団	基礎医学医療研究助成	畠山 鎮次	500,000
財団法人 伊藤科学振興会	研究助成	安東 頼子	800,000
社団法人 日本医師会	研究助成	瀬谷 司	1,500,000
	医学賞（社会医学）	岸 玲子	5,000,000
財団法人 かなえ医薬振興財団	研究助成	絹川 真太郎	1,000,000
		柳 輝輝	1,000,000
財団法人 医科学応用研究財団	調査研究助成	安田 和則	2,000,000
財団法人 内藤記念科学振興財団	若手研究者海外派遣助成金（秋季）	大平 洋	350,000
財団法人 日本応用酵素協会	研究助成	絹川 真太郎	450,000
財団法人 持田記念医学薬学振興財団	国内及び海外留学補助金	納谷 昌直	500,000
財団法人 北海道心臓協会	研究助成	絹川 真太郎	750,000
財団法人 先進医薬研究振興財団	精神薬療分野 一般研究助成	小山 司	1,000,000
	血液医学分野 萌芽研究助成	奥村 文彦	1,000,000
財団法人 寿原記念財団	医学の基礎と臨床助成	大場 雄介	1,000,000
財団法人 島原科学振興会	「医薬研究部門」研究助成	堀之内 孝	600,000

平成21年11月30日までの採択判明分

5 事務部から

医学部創立90周年記念事業募金活動 ー第13報ー ー募金期限まであと3ヵ月を残すのみとなりましたー

小 山 司 医学部創立90周年記念事業実行委員会副委員長

新年あけましておめでとうございます。医学部創立90周年記念事業基金の募金活動についてお知らせします。平成21年12月末現在の募金の納入状況は表のとおりとなっています。全体額が4億7千5百万円を超えました。本募金活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

ご承知のように、平成18年9月にスタートした募金活動の一部が変更されています。変更の要点は当面の募金目標額を5億円とし、募金期限が平成22年3月末までに延長となっています。また、それまで個人募金は1口10

万円とし、任意の額のご寄附も受け付けておりましたが、平成21年4月からは1万円単位のご寄附も可能となっています。

したがって、新たに設定された募金目標額5億円まであと約2千5百万円となりました。募金期限はあと3ヵ月を残すのみとなっています。医学部・病院職員はもとより同窓会の皆様、また関係各方面の皆様におかれましては、引き続きご理解とご協力をお願いする次第です。

寄附金納入状況（H21.12.31現在）

寄附金合計 475,284,252円

◎教 員	253名／ 439名 (57.6%)	44,370,000円
(内訳)		
医 学 科	専任教員 122名／ 151名 (80.8%)	25,640,000円
	特任教員 9名／ 30名 (30.0%)	740,000円
病 院	専任教員 93名／ 174名 (53.4%)	11,970,000円
	特任教員 2名／ 5名 (40.0%)	300,000円
保健学科	専任教員 26名／ 78名 (33.3%)	5,520,000円
	特任教員 1名／ 1名 (100.0%)	200,000円
◎分 野	3件	1,800,000円
◎同門会（団体）	2件	2,000,000円
◎同窓生（教員は除く）	1324名／6010名 (22.0%)	230,634,367円
◎学生の父母	120名／1434名 (8.4%)	14,329,885円
(内訳)		
医 学 科	93名／ 598名 (15.6%)	11,909,885円
保健学科	27名／ 836名 (3.2%)	2,420,000円
◎大学院生	1件	210,000円
◎法人等	225件	176,200,000円
◎篤志家 (団体・個人（同門会員を含む）)	34件	5,740,000円

ご寄附いただいた法人・企業・団体等

1	医療法人 愛全会	58	医療法人社団 センチネルクリニック
2	医療法人 あすくレディースクリニック	59	医療法人社団 蘇春堂形成外科
3	医療法人 いしかわクリニック	60	医療法人社団 寺島整形外科
4	医療法人 美しが丘眼科	61	医療法人社団 苫小牧緑ヶ丘病院
5	医療法人 英生会 野幌病院	62	医療法人社団 豊平おおたこどもクリニック
6	医療法人 エム・ティー・エヌ 北海道泌尿器科記念病院	63	医療法人社団 西谷皮膚科医院
7	医療法人 延山会	64	医療法人社団 プリモウイメンズクリニック
8	医療法人 王子総合病院	65	医療法人社団 平成醫塾 苫小牧東病院
9	医療法人 亀田病院	66	医療法人社団 朋仁会
10	医療法人 歓生会 豊岡中央病院	67	医療法人社団 萌生舎 宮の沢泌尿器科クリニック
11	医療法人 清田病院	68	医療法人社団 朋友会 石金病院
12	医療法人 溪仁会	69	医療法人社団 北斗
13	医療法人 啓生会病院	70	医療法人社団 友愛会 恵愛病院
14	医療法人 恵哲会	71	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院
15	医療法人 研成会	72	医療法人社団 我汝会 えにわ病院
16	医療法人 耕仁会 札幌太田病院	73	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院
17	医療法人 康清会	74	社会福祉法人 函館厚生院 函館中央病院
18	医療法人 札幌グリーン病院	75	特定医療法人 修道会 本田記念病院
19	医療法人 札幌西の峰病院	76	特定医療法人 北楡会
20	医療法人 樹恵会 石田病院	77	特別医療法人 明生会
21	医療法人 彰和会 北海道消化器科病院	78	特定医療法人社団 カレスサッポロ
22	医療法人 新札幌整形外科病院	79	特定医療法人社団 千寿会 三愛病院
23	医療法人 仁友会 北彩都病院	80	特定・特別医療法人 函館渡辺病院
24	医療法人 仁楡会	81	一般社団法人 女性の健康と医療を守る医師連合
25	医療法人 正観会 御野場病院	82	総合病院 北見赤十字病院
26	医療法人 千隆会 岸原病院	83	総合病院 釧路赤十字病院
27	医療法人 つつみ整形外科クリニック	84	総合病院 伊達赤十字病院
28	医療法人 禎心会 セントラルC I クリニック	85	小樽循環器病院
29	医療法人 糖生会 大通り内科クリニック	86	太田医院
30	医療法人 徳洲会 札幌徳洲会病院	87	釧路泌尿器科クリニック
31	医療法人 中江病院	88	広田医院
32	医療法人 西病院	89	学校法人 函館佐藤学園
33	医療法人 ひまわり会 札幌病院	90	財団法人 基礎腫瘍学研究会
34	医療法人 母恋(旧 医療法人社団 カレスアライアンス)	91	財団法人 協済会
35	医療法人 北海道整形外科記念病院	92	株式会社 アークス
36	医療法人 萬田記念病院	93	株式会社 アインファーマシーズ
37	医療法人 もみの木会 わたなべ整形外科	94	株式会社 アミノアップ化学
38	医療法人 山田眼科	95	池田煖房工業株式会社
39	医療法人社団 愛心館	96	エア・ウォーター株式会社
40	医療法人社団 石山医院	97	株式会社 エスアールエル
41	医療法人社団 石山内科循環器科クリニック	98	エフビー株式会社
42	医療法人社団 いずみ会 北星病院	99	株式会社 大林組 札幌支店
43	医療法人社団 いぶり腎泌尿器科クリニック	100	有限会社 川尻工業
44	医療法人社団 栄仁会 栄通わたなべ内科	101	株式会社 グランビスタ ホテル&リゾート 札幌グランドホテル
45	医療法人社団 エス・エス・ジェイ 札幌整形循環器病院	102	株式会社 玄米酵素
46	医療法人社団 慶愛会 札幌花園病院	103	株式会社 工成舎
47	医療法人社団 恵水会 田島クリニック	104	三協ラボサービス株式会社
48	医療法人社団 健心会 桑園病院	105	ジーイー横河メディカルシステム株式会社
49	医療法人社団 廣仁会	106	株式会社 ジーンテクノサイエンス
50	医療法人社団 康仁会 中田泌尿器科病院	107	株式会社 島津製作所 札幌支店
51	医療法人社団 幸和会 くとしん外科胃腸科	108	新日本製鐵株式会社
52	医療法人社団 五風会 さっぽろ香雪病院	109	株式会社 スクウェア・ワン
53	医療法人社団 司馬内科クリニック	110	スミス・アンド・ネフューエンドスコピー株式会社
54	医療法人社団 清水内科医院	111	セコム株式会社
55	医療法人社団 信洋会 石山病院	112	大成建設株式会社
56	医療法人社団 信和会 石川泌尿器科	113	株式会社 太陽グループ
57	医療法人社団 積信会 三村病院	114	株式会社 竹山

115	株式会社 ツルハホールディングス	134	北海道医薬品卸売商業組合
116	戸田建設株式会社 札幌支店	135	北海道厚生農業協同組合連合会
117	株式会社 難波薬局	136	北海道コカ・コーラボトリング株式会社
118	日本光電工業株式会社	137	北海道電力株式会社
119	株式会社 日本製鋼所	138	北海道旅客鉄道株式会社
120	日本製薬団体連合会	139	北海道和光純薬株式会社
121	日本電気株式会社	140	北海道バイオシステム株式会社
122	日本メジフィジックス株式会社	141	丸水札幌中央水産株式会社
123	日本メディカルマテリアル株式会社	142	三笠製薬株式会社 札幌支店
124	日本メドトロニック株式会社	143	三菱化学メディエンス株式会社
125	柏楊印刷株式会社	144	株式会社 ムトウ
126	株式会社 間組 札幌支店	145	株式会社 メディカルイメージラボ
127	株式会社 フィリップスエレクトロニクスジャパン	146	第一管区海上保安本部刑事課有志一同
128	富士ゼロックス株式会社	147	北海道大学泌尿器科同門会
129	富士フイルム R I ファーマ株式会社	148	北海道大学大学院医学研究科病態情報学講座核医学分野
130	株式会社 富士メガネ	149	北海道大学医学部精神医学教室同門会
131	株式会社 ほくやく	150	北海道大学生協同組合
132	株式会社 北洋銀行	151	北海道大学大学院医学研究科腫瘍病理学分野
133	北海電気工事株式会社	152	北海道大学大学院医学研究科腎泌尿器外科学分野

H21.12.31ご入金分まで

掲載の許可をいただいた法人・企業等のみ掲載しています。(順不同)

広報室便り12

2009年は毎年刷新する、「医学研究科・医学部医学科概要」「医学研究科案内」「医学科案内」の作成に加え、オープン・ユニバーシティなどに使用される医学部を紹介したDVDを作成しました。また、何となく使用していたロゴマークも形体・書体を統一し、皆さんが使いやすいようにホームページに入っております。「医学研究科・医学部教育白書」も事務の多大な協力のもと何とか日の目をみることができました。関係各位に感謝申し上げます。今年に引き続いている作業としては「北大医学部創立90周年記念誌」の作成支援にあたっております。3月完成を目指して頑張っているところですので、ご協力の程よろしくお願い致します。HPに関しては、教務関係の公示・書類手続きの便宜を図ることなどの面で充実を図る一方、医学研究科・医学部医学科の研究面での活躍を積極的に宣伝する姿勢を保っております。今年はHPの安全性を高める意味からも、本HPに付属する各分野などのHPを分離し、より充実したものにしていく予定であります。重ねて、関係各位のご協力をお願い致します。

(広報室長 野々村克也)

編集後記

新年おめでとうございます。本年もより充実した紙面にしていきたいと思っておりますので宜しくお願いします。本号は新年号ですので安田研究科長には医学部の現状と展望についてご挨拶をいただきました。その中で、特に医学研究科の業績はトムソン・ロイター社のデータベースにより、北大の中でトップであるとのことでしたが、学内でトップであるのは当然のことで研究に携わるものとしては、さらに身を引き締めて邁進していかなければならないと感じました。また、国立大学医学部長会議、国際交流、医局対抗サッカーの様子などについて記事をいただきました。原稿を書きながらふと窓の外に目をうつしますと、現在、同窓会館建設工事が真っ最中です。90周年記念事業御寄附状況につきましても現状を掲載していますが、内装、内部整備のための費用がまだ不足している状況ですので、皆様方のさらなるご支援も宜しくお願い申し上げます。

(広報編集委員長 田中 伸哉)

Home Pageのご案内

医学研究科／医学部医学科広報は

<http://www.med.hokudai.ac.jp/ko-ho/index.html>

でご覧いただけます。また、ご意見・ご希望などの受け付けメールアドレスは、

goiken@med.hokudai.ac.jp

となっております。どうぞご利用ください。

北海道大学大学院医学研究科／医学部医学科

発行 北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科
広報編集委員会

060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

連絡先 医学系事務部総務課庶務担当

電話 011-706-5892

編集委員 田中 伸哉(委員長)、白土 博樹、
玉城 英彦、佐藤 松治